

フィンテック第2幕 (14)

貿易金融、効率大幅向上へ

フィンテックの取り組みは各国内でのサービスにとどまらず、外国との輸出入における金融サービス＝貿易金融にまで及んでいる。貿易金融とは、円滑に貿易取引をするために、政府系や民間の金融機関が必要となる資金を貸し付けたり、代金の支払いを保証したりするサービスのことである。

貿易金融では輸出者、輸入者、船会社、銀行、保険会社など多数の企業が関与し、代金支払いを確約する信用状、船会社が貨物を引き受けたことを証明する船荷証券、貨物破損に備えた保険証券など多くの書類をやり取りする必要がある。この煩雑な書類のやり取りによりトラブルが度々起こりうるが、これを効率的に行うためブロックチェーン（分散台帳）という新しい技術を用いてシステム実装する取り組みが進んでいる。

ブロックチェーンとは、暗号資産（仮想通貨）に使われている技術で以下のような特徴がある。1つ目は、同じ情報を多くの人で共有することに向き、特定の人のみが参照できるよう設定することもできる。2つ目は、多くの人で情報を共有した場合、悪意がある人

は情報を改ざんしようとするかもしれないが、ブロックチェーンではそれが事実上できない。3つ目は、システムとそれに含まれる情報が分散しているため、システムの一部が停止してもシステム全体は稼働し続けることができる。

このブロックチェーンと貿易金融の親和性は極めて高い。ブロックチェーンを使って貿易金融をシステム実装し、煩雑なやり取りを1つのシステムの中で行えば、情報登録や参照を管理できるだけでなく、書類の偽造や改ざんも防げる。それゆえに、多くの国で多くの事業者がシステム会社を交えた個別のコンソーシアム（共同企業体）を作り、個別の機能を持つシステムで実証実験をしている。

まだ実証実験の段階で、将来どのように発展をするかは未知数である。現在の貿易取引は、各国ごとと品目ごとにルールがあり、それに基づき書類を作成し手続きしている。これが各国ごとの貿易金融のシステムに置き換えれば、煩雑な書類のやり取りはシステムで行えるようになり、業務効率は高まる。しかし、貿易は相手国あっての話であるため、相手国ごとに処理を変えなければならない煩雑さは残ってしまう。

本質的な解は、貿易手続きを世界で標準化し、システムも標準化することにある。貿易金融のシステム構築が契機となり、関税・検疫なども含めた貿易手続きの標準化が進めば、貿易関連の事業者にとって最良だが、各国や各システム会社が自己主張を始めたら、まとまるものもまとまらない。貿易手続きの標準化の議論には長い時間と労力がかかるが、それこそが貿易関連の事業者の全てが本当に求めていることなのである。

貿易取引(信用状取引)の流れ

